

# エリック・サトウの「ジャズ」

〜⑩〜

まるで夢のような渡辺さんだよ。しかも無料なんだかの「好意で、日本中のこの

フアンクラブにも負けない内容のレコードコンサートが続けられる見込みの立った僕ら

はますます張り切って、絶対だ、オヤジさんは。まるで一月一回の定期的催しにしよう

と誓ったのだけれど、ひとつ問題があるんだなあ。

「ジャズはもはや単なるダンス音楽ではない。立派な鑑賞音楽だ」などと胸を張って見せたって、会場がダンスホールではねえ。やっぱりオヤジさんを説得しなくては

「ねえ。もう一度わがまま言わせてもらおうけど、会場もうちよつとツウの所になりませんか」「ダンスホールではだめかねえ。よし今度は絶対という所を探してみせるからね」。それからまた数日。「すぐ近くだから行ってらん。日曜日なら当直一人だから自由に使ってよいそう

だ。しかも無料なんだから」  
地図をたよりに出かける

と、なんとそこは伏見通にあった「教育館」だ。極端な八〇度の転換だ、  
今ではもうすっかり変わって、当時をしのぶ何の手がかりもないけれど、古い木造二階建ての教育館は、周りを広い空地に囲まれて、街なかと

## 気分も新たに 会場は教育館

は思えない静かな環境だった。会場にあてた部屋は、百

人ほど収容出来る教室のよう

なつくりだが、じっくりジャズを聴くには最高と思われ

た。あがりつよ、オヤジさん。

そして五月。三回目のコン



デューク・エリントンの10枚LPを手に当時を懐かしむ吉川康史さん＝名古屋市中南区の自宅で

に来ませんか」。

少しばかり僕より年かざらしいその方は、吉川康史と名乗り、「今、名大病院の泌尿器科に勤務しますよ」。お

やおや僕の先輩だ。偶然にも渡辺さんの近くだった吉川先生宅は、戦災の焼け跡の仮住居といった風情ながら、その

一室で見たのは、よくもまあ集められたと感心する数々のデューク・エリントンのレコードだった。

エリントンを中心とする三〇年代のジャズが好きと言われる先生に、「僕はそのあたりのジャズ得意じゃないんです。ぜひ解説お願いしたいなあ」。

こうして以後は先生がスイングジャズ、僕はディキシーとモダンジャズという役割が決められた。一方では、自作のオーディオ・セットをコンサートごとに会場まで自転車で運び込んで、レコードまわりの役を引き受けて下さる会員も出現したりして、僕らの手作りコンサートはとうやうや軌道に乗ったかに見えたのだけれど――。

三十五曲というめっちゃくちな長曲で、今考えると、よくもまあ皆さん忍耐強くつき合っ

て下さったものだねえ。もっともメモ片手に精いっぱい

お話しした僕の方もぐったりしてへたりこんでしまったけれど。

そこへ、つかつか一人の若い紳士が近寄って「どうも長時間お疲れさま。とても面白く聴かせてもらいました。よかったら僕もお手伝いしたいと思うんだが。一度家に遊び

に来ませんか」。

少しばかり僕より年かざらしいその方は、吉川康史と名乗り、「今、名大病院の泌尿器科に勤務しますよ」。お

やおや僕の先輩だ。偶然にも渡辺さんの近くだった吉川先生宅は、戦災の焼け跡の仮住居といった風情ながら、その

一室で見たのは、よくもまあ集められたと感心する数々のデューク・エリントンのレコードだった。

エリントンを中心とする三〇年代のジャズが好きと言われる先生に、「僕はそのあたりのジャズ得意じゃないんです。ぜひ解説お願いしたいなあ」。

こうして以後は先生がスイングジャズ、僕はディキシーとモダンジャズという役割が決められた。一方では、自作のオーディオ・セットをコンサートごとに会場まで自転車で運び込んで、レコードまわりの役を引き受けて下さる会員も出現したりして、僕らの手作りコンサートはとうやうや軌道に乗ったかに見えたのだけれど――。

(内田 修)